

平成 23 年 10 月 31 日

## 東松島復興推進員だより(第3号)

～地を往きて走らず～

平成 7 年の阪神・淡路大地震の復興プロセスの中で、多くのことを学び、様々な提言がだされました。それが活かされたのが平成 16 年の新潟県中越大地震でした。

中越では、被災地域のコミュニティを崩すことなく、仮設住宅へ移転しその後の復興公営住宅や復興住宅団地に移り、地域の絆を生かした復興につながっています。また、仮設住宅入居後には生活支援相談員が被災者の生活をサポートし、その後に地域復興支援員がコミュニティ機能の維持・再生や地域復興を目的に、コミュニティに寄り添った活動を展開しています。

中越大地震からの復興プロセスを学ぶために、東松島地域復興推進員の研修を、(社)中越防災安全推進機構に実施していただきました。

長岡市を訪問した、10月23日は中越大地震から丁度7年目にあたる日で、「中越メモリアル回廊」のオープンイベントへも参加させていただきました。「中越メモリアル回廊」は震災被害のあった地区に作られたアーカイブセンター「きおくみらい」や「そなえ館」、「きずな館」、「メモリアルパーク」など4施設と3パークがからなり、これらを巡ることで中越大震災の経験と教訓が学べるとともに、地域の交流拠点となっています。



きおくみらいにて復興プロセスを学ぶ



山古志にて支援員との意見交換

まず、中越の復興プロセスの概要を中越防災安全推進機構や新潟県職員等から、復興の流れ、生活支援相談員や地域復興支援員についての概要をお話しいただきました。大学や市民団体等の地域のリソースが団結し、支援体制が生まれ育っていった経緯やプロセス、中越においても復興支援員の役割は決まった形がなく、様々な方法があり、また、外部からの支援員が入ることで地域住民に化学反応が起こることなどを学びました。

長岡市の山古志地区、川口地区を訪問し震災から復興した今の状況を確認するとともに、復興した地域の住民の方々が主体的に始めた事業などを見させていただきました。地域の資源を大切にし、地元の食材を活用した料理を提供したり、大好きな農業を通して生きがいつくりや交流を行ったり、みなさんともに明るい笑顔で生き生きされています。

地域復興推進員の業務を始めて2か月が経ち、行政との距離の取り方、地域住民への入り方、地域復興推進員としての業務の進め方など、疑問に思っていたことや課題について地域内で活躍する地域復興支援との意見交換を通して、多くのヒントを得ることができました。



川口にて意見交換



7年間の復興のれきし経験を示した年表

次回は中越の支援員の方に宮城県を来訪いただき、これからも、双方の経験共有や情報交換を通して、地域コミュニティを大切にしたい復興支援に取り組んでいきます。

【社団法人 中越防災安全推進機構】

<http://c-bosai-anzen-kikou.jp/>

【中越メモリアル回廊】

<http://c-marugoto.jp/>

以上

\*\*\*\*\*

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。

\*\*\*\*\*